文部科学省研究開発学校指定（平成27～30年度）

持続可能な社会を創造し
自己を確立できる生徒の育成

グローバル人材育成科の創設と
６つの資質・能力

上越教育大学附属中学校

平成30年度 研究開発学校研究協議会

2019年１月15日(火)

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of EducatioN

研究開発課題

高度情報社会，少子高齢社会，グローバル社会の時代に求められる資質・能力（アビリティ）をバランスよく総合的に身に付け，「持続可能な社会を創造し，自己を確立できる生徒」を育成する教育課程及び指導方法の研究開発

持続可能な社会を創造し，自己を確立できる生徒の育成

これからの社会に必要な人材

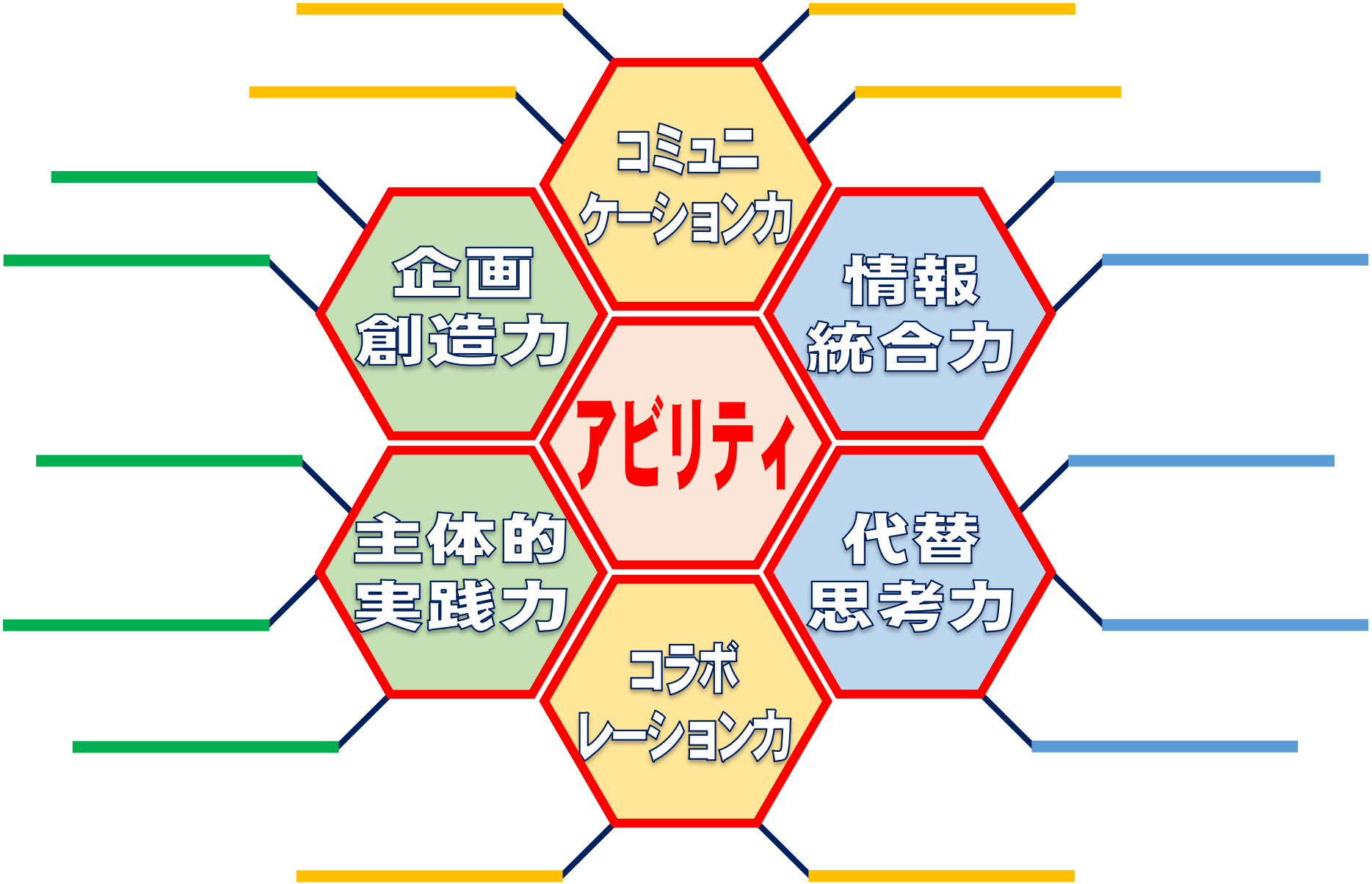
- これからの社会に適応するだけでなく，
  これからの社会を創り上げる人材
- 人としての在り方を重視し，
  歩むべき正しい道を自ら切り拓く人材

1 -(1) 研究主題

持続可能な社会を創造し，
自己を確立できる生徒の育成

研究主題で目指す生徒＝**グローバル人材**

1 -⑵ アビリティと『スキル』



1 -⑵ アビリティと『スキル』

目標は，アビリティを育成すること

500時間

3年生 185時間

2年生 175時間

1年生 140時間

⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ①

ステージのテーマ

向上を目指す主な『スキル』

『スキル』向上 トレーニング

『スキル』向上 コンテンツ

2 -(1) グローバル人材育成科

グローバル人材育成科　さくらステップシート

ステージ９　『祭り』をつくる②　９月

ルーブリック「さくらステップシート」

学習活動

○　体育祭
○　文化祭
→合唱コンクールも含め，ＰＲの方法を検討し地域住民を巻き込んでいく。イベント企画は前日に予行し，修正を行ってから「おもてなし」を目的とした本番に臨む。
○　Debating in English
○　学級討議・生徒総会

トレーニング

情報発信を極めよう
ポスター告知を極めよう
インタビューを極めよう
ディベートを極めよう

ることを想定しています。
その場合，もとの文字が見えるように取り消し線を引いて修正します。変化の足跡が見えるようにするためです。
したがって，最初のS目標の記述で，枠いっぱいに書く必要はありません。

ステージ9では，これまで身に付けてきたアビリティを全て発揮し，学校の主役となって2大行事を創りあげ，成功に導きます。また，2年生への引き継ぎの時間でもあります。体育祭・文化祭の運営を通して，自分たちが立ち上げた企画を，実際に上手に運営するには，どのように仲間や外部の方たちと協働すればよいのかを体験的に学びます。

自ら設定するＳ目標

Ａ目標

Ｂ目標

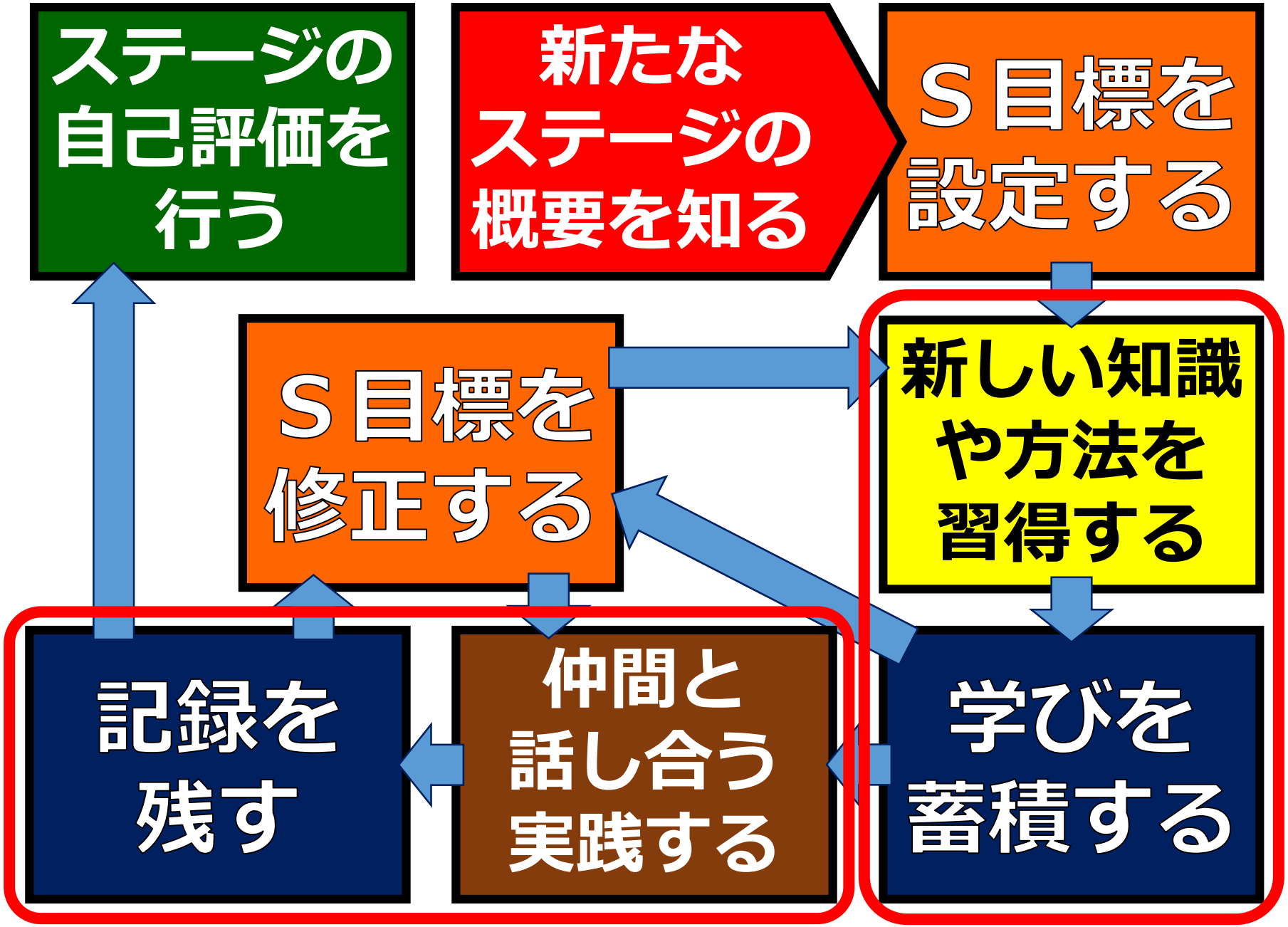
『スキル』

アビリティ

2 -⑴ グローバル人材育成科

デジタル・ポートフォリオ「あしあと」

2 -⑴ グローバル人材育成科



2 -⑵ 各教科

教科の目標を達成した生徒

『スキル』を発揮した姿に迫る手立て

『スキル』を発揮した生徒の姿

学習活動

教科の手立て

学習前の生徒

国語科

社会科

数学科

理科

音楽科

美術科

保健体育科

技術・家庭科

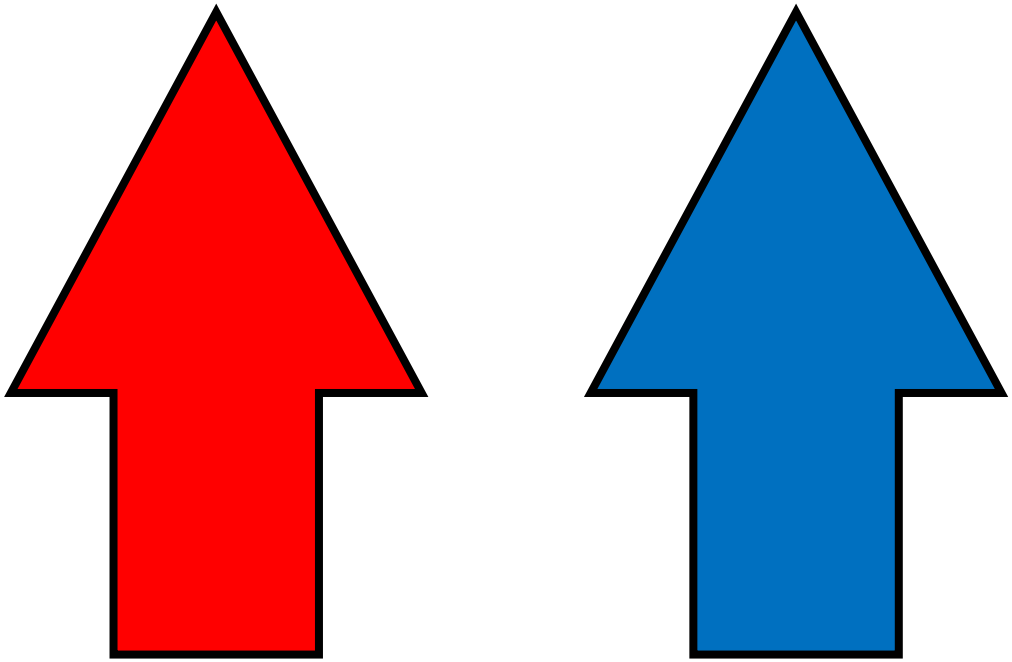
英語科

道徳

2 -⑶ グローバル人材育成科と各教科の関係

グローバル人材

アビリティをあらゆる場面で発揮する生徒



グローバル人材育成科	各教科

3 -(1) グローバル人材育成科

	中心となるコンテンツ	向上を目指す主な『スキル』
Stage.10	未来へつなぐシンポジウム	情報発信　互恵行動
Stage.9	文化祭	準備試行　役割遂行　協働創造
Stage.8	文化祭企画コンペ	比較検討　手段構築　情報発信
Stage.7	Presentation in English② 修学旅行	目標設定　相互理解　互恵行動
Stage.6	文化祭	準備試行　役割遂行　協働創造
Stage.5	Presentation in English① サバイバルキャンプ	目標設定　相互理解　即応思考　情報発信
Stage.4	観桜会おもてなしプロジェクト	思考拡散　思考収束　渉外調整
Stage.3	本町商店街プロジェクト（文化祭）	渉外調整　礼儀作法　互恵行動
Stage.2	ドキドキキャンプ①②	思考拡散　手段構築　即応思考
Stage.1	観桜会おもてなしプロジェクト観察	情報収集　情報整理　目標設定

3-⑴ グローバル人材育成科

＜第２年次＞

- Ｓ目標を自ら設定することで，ステージの学びや『スキル』への関心が深まっている。

＜第３年次＞

- 評価ツールのルーブリックが，学びのガイドラインとしても機能している。

3-⑴ グローバル人材育成科

＜第４年次＞

- ステージガイダンスや自己評価における具体的なモデルの提示

＜第４年次に向けた課題＞

- ルーブリックやポートフォリオを作成する際，『スキル』の自覚が足りないうちは記述や記録の内容が不十分で，期待されるような生徒の変容が見られないことがある。

Stage. 1 仲間とよりよくかかわる

向上を目指す主な『スキル』

情報収集 **情報整理**

目標設定

［情２ 情報整理］ 例えば，みんなでインタビューしてきた内容をまとめるとき，どんな視点で共通点などを整理するとよいかな…

3 -⑴ グローバル人材育成科

情報収集

相手に目と体を向けて
メモを取りながら
取材する生徒

情報整理

色分けをしながら
ホワイトボードに
考えをまとめる生徒

ルーブリック「さくらステップシート」

Stage. 8 仲間とよりよくかかわる③

【あなたの目指すさらに上の姿】

本番に、最高の合唱やプレゼンテーションを行うための準備として、細かく目標設定をし、それらを基に計画を立てる。そして、役割分担をして、1回1回の内容を濃いものにする。

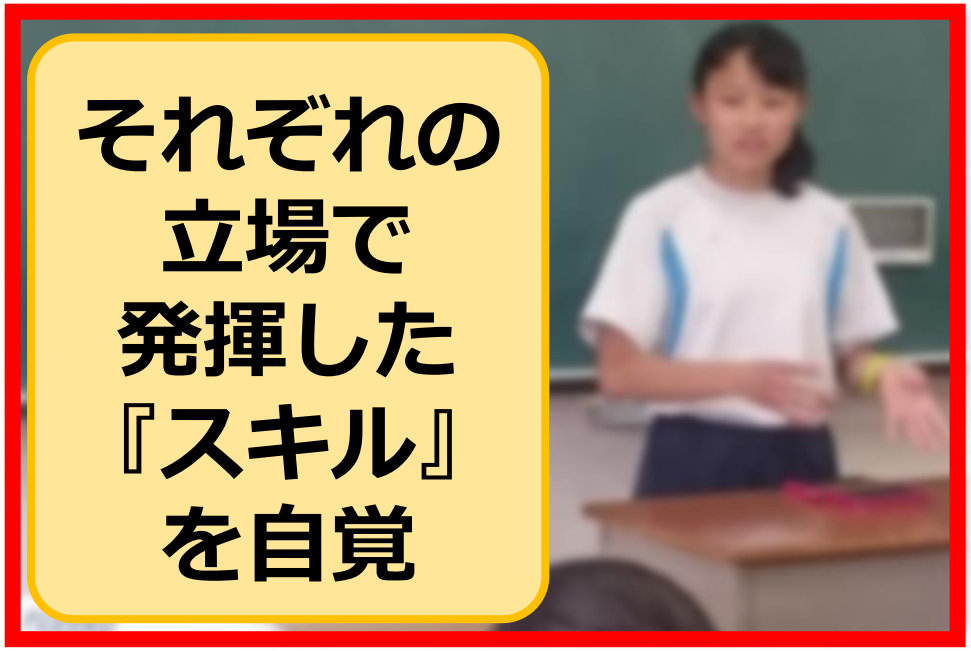
手段構築

翌日の内容などをあしたのとに記入する

本番に，最高の合唱やプレゼンテーションを行うための準備として必要なステップを挙げ，それらを基に計画を立てる。また，必要に応じて，途中で日程や役割分担を調整できる。

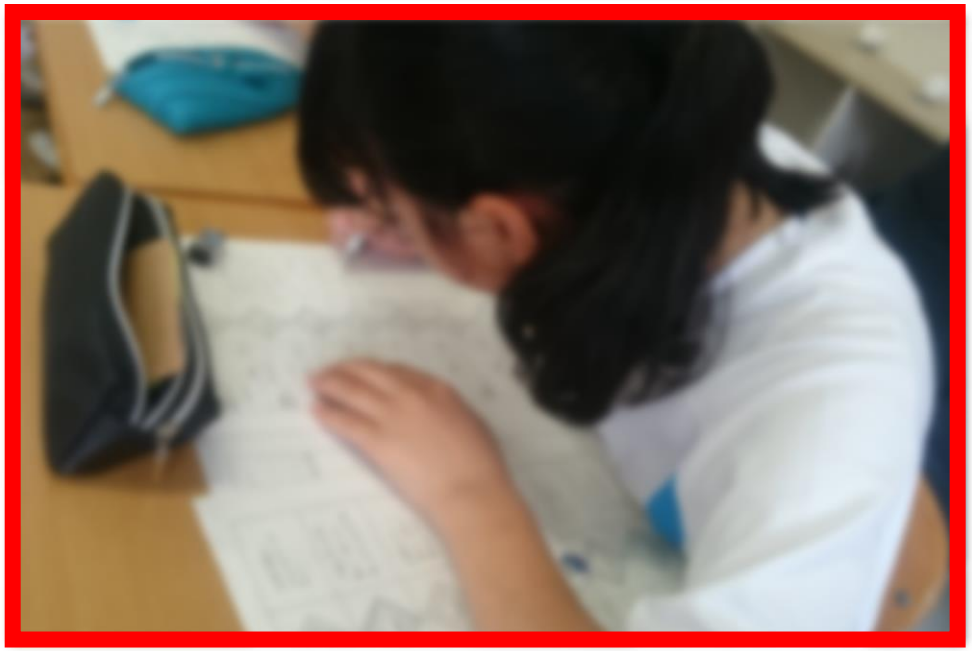
3 -(1) グローバル人材育成科

デジタル・ポートフォリオ「あしあと」



自分の発表が終わった後，質問があってそれについて詳しくは考えていなかったが，「即応思考」を使って時間をかけずに答えることができたと思う。

発表者 **即応思考**



比較検討や思考拡散ができた。自分の案と比較させたり，コラボができそうだなと考えられたりした。

聞き手 **比較検討** **思考拡散**

3 -⑴ グローバル人材育成科

自己評価	文化祭の企画を学級で10企画にする場面で，**学級で決めた５つの視点から客観的に**見ることができた。また，同じような企画があったときに，**企画のメリット・デメリットを考えて，よりよい案を選んだ**り，**２つの要素を合体して１つの企画にできないか考えた**りすることができた。
S目標	たくさんのアイデアの中から，**課題を見る上で必要となる視点を考えて**，そこから**比較して効果的な案を選び**，それを**自分の企画と比較したりよりよいものにしたり**できる。

3 -⑵ 各教科

<第２年次>

- 新しい学習活動を設定しなくても，各教科の学習活動は，アビリティと関連がある。

<第３年次>

- アビリティの育成を視点に授業改善を行うことで，教科の目標により迫ることができる。

＜第４年次＞

- 学習活動において『スキル』を発揮した姿とその姿に迫る手立ての見直し
- 『スキル』マグネットの活用

＜第４年次に向けた課題＞

- グローバル人材育成科と同様に，授業で発揮した『スキル』の自覚が足りないうちは，期待されるような生徒の姿が見られないことがある。

音楽科「ソネットを手掛かりに曲想を予想しよう」

作曲者がどのようにソネットと音楽の諸要素を関連させたか予想し，**予想を基に考えながら鑑賞する**

3 -(2) 各教科

主な学習活動（◇）／『スキル』とその具体（太字）	具体的な手立て（o）／留意点（※）
◇分担されたソネットについて，各自が予想したことをグループで伝え合い**音楽の諸要素の変化を整理する**。	◦生徒の思考が整理しやすくなるよう，音楽の諸要素の中の，**速度，音色，音域の３つに絞る**。 **『スキル』を発揮した姿に迫る手立て**

速度，音色，音域ごとに意見を出し合い，グループで考えを分類したり整理したりする。

情２　情報整理

◦生徒の話合いの様子を見ながら，グループ内の考えを要素ごとに整理し，そう考えた根拠をメモするなど**ホワイトボードの活用**を促す。
◦予想の根拠を意識できるよう，必要に応じて**「音楽カルテ」の活用**を図る。
◦イメージをもちやすくするために，**順番に課題を示す仕組みを取り入れたワークシート**を用意する。

3 -(2) 各教科

国語	年	期	情報統合力	代替思考力	企画創造力	主体的実践力	コミュニケーション力	コラボレーション力
社会	3	3						
数学		2						
理科		1						
音楽	2	3						
美術		2						
保体		1						
技家	1	3						
英語		2						
道徳		1						

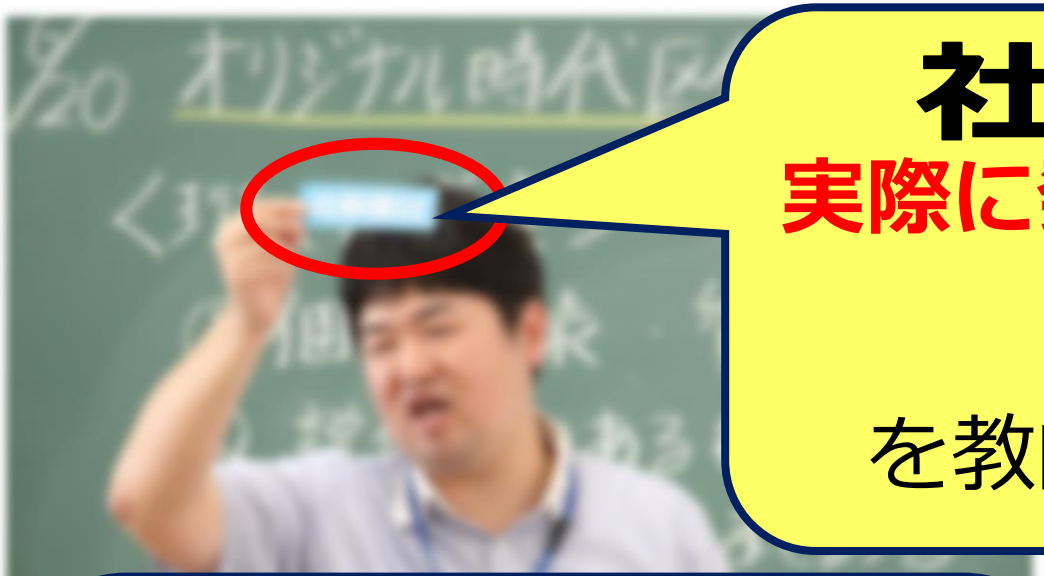
各教科を合わせて
バランスよく
アビリティが
育成される

異なる分野や目的をもった
集団が協力して制作する力

3 -(2) 各教科

国語	年	期	情報統合力	代替思考力	企画創造力	主体的実践力	コミュニケーション力	コラボレーション力
社会	3	3	各教科＋グローバル人材育成科					グローバル人材育成科
数学		2						
理科		1						
音楽	2	3						
美術		2						
保体		1						
技家	1	3						
英語		2						
道徳		1						

3 -⑵ 各教科



社会科（1年生）

実際に発揮した『スキル』

比較検討

を教師が**みとって提示**

グローバル人材育成科（3年生）

向上を目指す『スキル』

比較検討 **思考拡散**

手段構築 **情報発信**

を教師が**あらかじめ提示**

各学年のパフォーマンス課題

＜１年生＞

長野市内の小学校に，魅力的な**「上越地域を巡る修学旅行」**を考え，**発表する**

＜２年生＞

国民の防災意識を高める**「防災パンフレットコンテスト」**に応募する内容とキャッチコピーを考え，**発表する**

＜３年生＞

中学生対象の**「起業コンペ」**に応募するプレゼンテーションを作成し，**発表する**

3-(3) パフォーマンステスト

同一課題の２種類のパフォーマンステスト

パフォーマンス

A

アビリティ育成の素地となる『スキル』の評価

『スキル』がどの程度定着しているか

パフォーマンス

B

研究主題に対する教育課程の有効性の評価の一部

アビリティをあらゆる場面で発揮できるか

3-⑶ パフォーマンステスト

<第２年次>

- パフォーマンステストＡでは，７月と12月の比較で『スキル』の出現が増加した。

<第３年次>

- 紙上の構想では発揮されなかった『スキル』が，実際の行動場面で発揮されることがある。

3-⑶ パフォーマンステスト

＜第４年次＞

- 抽出生徒へのインタビューの実施

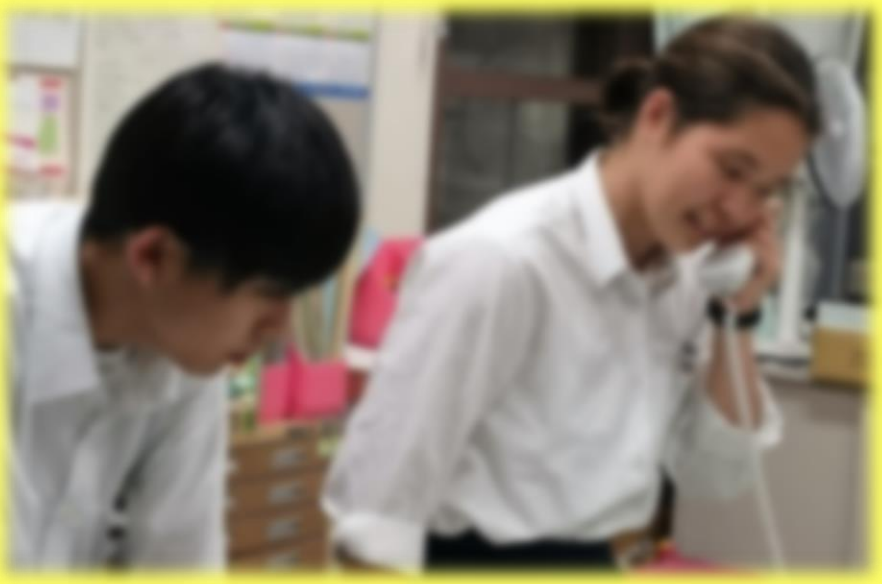
＜第４年次に向けた課題＞

- どのような経緯で『スキル』の発揮につながったのかを詳細にするには，抽出生徒へのインタビューなど追跡調査を行う必要がある。

3-⑶ パフォーマンステスト

Q．訪問のアポイントをとる電話の際，
発揮した『スキル』は何だと思うか。

A．順序立てて話す **手段構築**
相手の返答を受けて話す **即応思考**
明るい声で敬語で話す **礼儀作法**
を発揮できた。



3-⑶ パフォーマンステスト

Q．『スキル』を発揮したことが，**どのような成果**につながったと思うか。

A．（順序立てて話すことで）
スムーズに交渉が進んだ。
（明るい声で敬語で話すことで）
相手に悪い印象を与えず，
（相手の返答を受けて話すことで）
やりとりから最良の方法で交渉ができた。

４-⑴ 本研究に対する評価

グローバル人材

アビリティをあらゆる場面で発揮する生徒

１　パフォーマンステスト

２　持続可能な社会に関する筆答検査

３　生徒，保護者に対するアンケート等

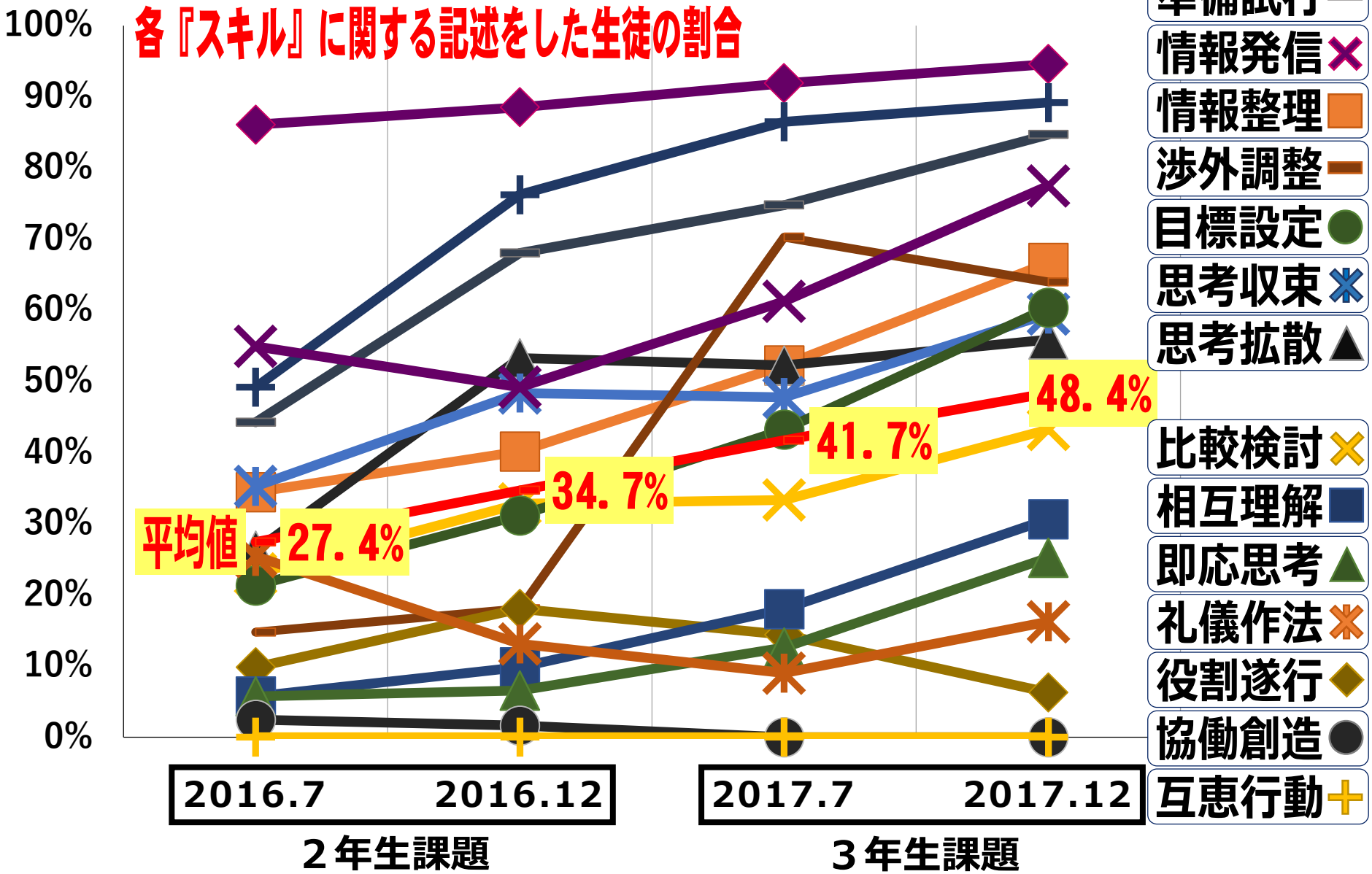
4 -(1) 本研究に対する評価

生徒がアビリティをあらゆる場面で発揮できるようになっているか

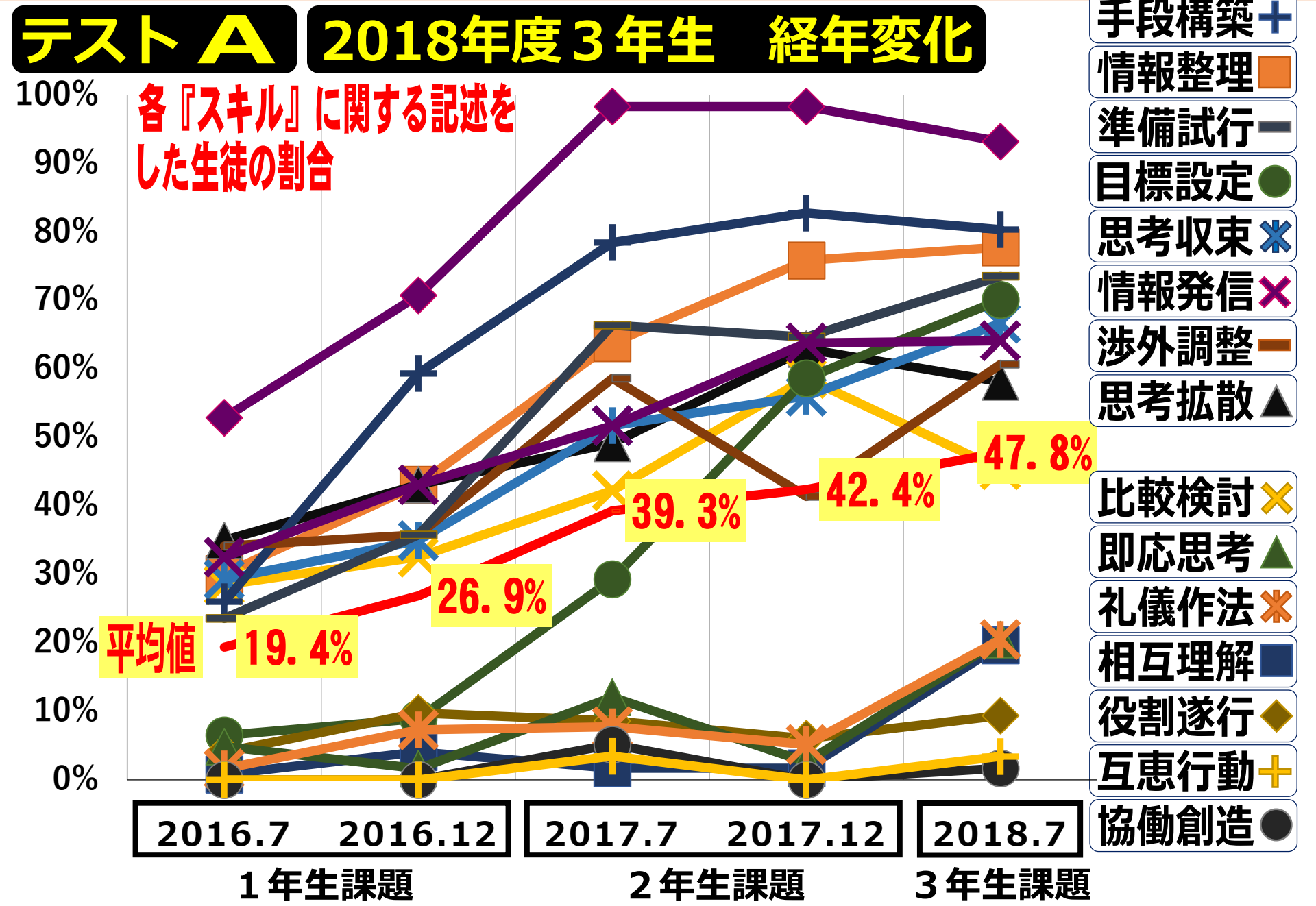
グローバル人材育成科や各教科の学習を通して『スキル』が向上したという自覚があり，あらゆる場面で課題や活動に応じてアビリティを発揮できるようになった

4-(2) パフォーマンステスト

テスト A　**2017年度３年生　経年変化**



4-(2) パフォーマンステスト



4-(2) パフォーマンステスト

テストB

		3年生徒①		3年生徒②		2年生徒③		2年生徒④	
アビリティ	『スキル』	A	B	A	B	A	B	A	B
主体的実践力	渉外調整		◎	○					
	準備試行		◎		◎		◎	○	○
	役割遂行				◎				◎
コミュニケーション力	相互理解				◎		◎		
	即応思考		◎		◎		◎	○	○
	情報発信		◎	○	○		◎	○	○
	礼儀作法		◎		◎				
コラボレーション力	協働創造								
	互恵行動		◎		◎				

○は１回以上『スキル』が発揮されたと判断できたもの，
◎はテストＢで新たに発揮されたものを表す

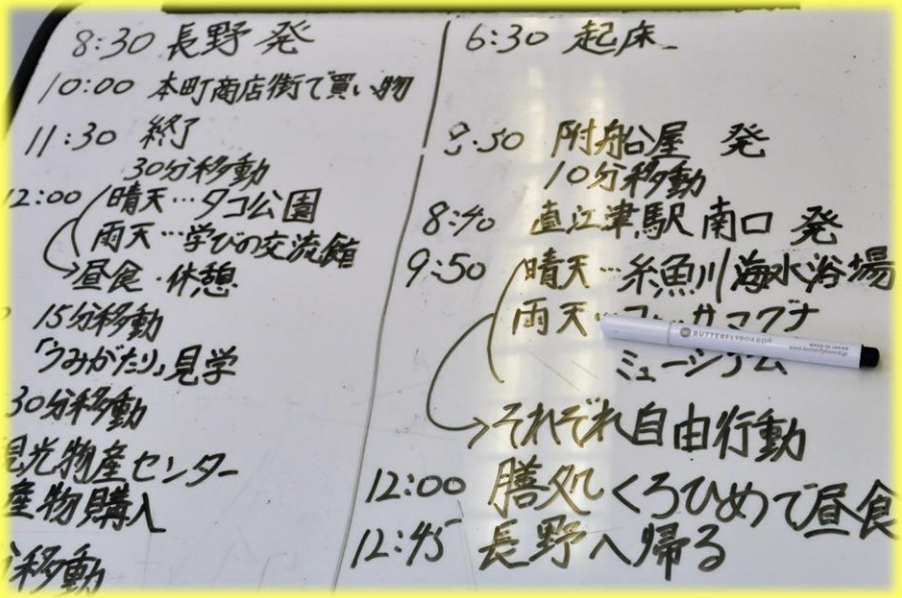
4-⑵ パフォーマンステスト

テストB

Q．（上越地域での修学旅行コースをプレゼンするという課題で）**雨天案まで考えた**ことについて。

手段構築

A．４月の「観桜会おもてなし」で，１日目に**雨が降ったとき，想定がなく思うように活動できなかったから**，最初から雨天時の想定をしようと思った。



4-(2) パフォーマンステスト

テストB

Q．活動を通して**一番発揮した『スキル』**は何だと思うか。

A．ホワイトボードやタブレット端末を組み合わせて使うことで，たくさんの意見を比べたりまとめたりできたので，

情報整理や**比較検討**を発揮したと思う。

4-⑵ パフォーマンステスト

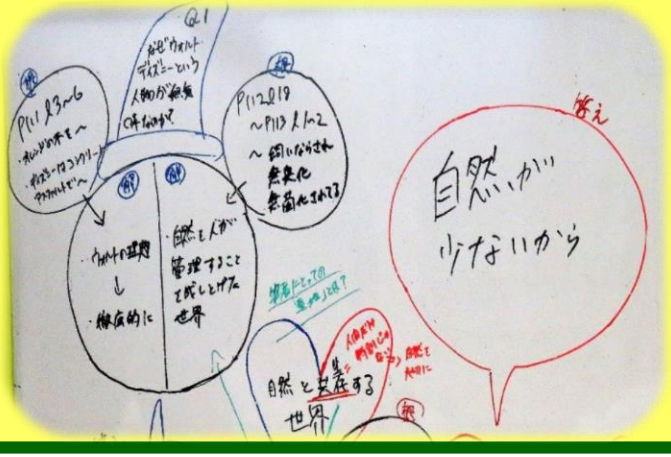
テストB

Q．**これまでの学びのどの経験**が役立っているか。

情報整理 **比較検討**

A．**国語，数学，理科の授業でのホワイトボードの使い方**が参考になった。

（国語）登場人物の心情や特徴を**ＰＭＩやベン図を使って比較した**り，（数学）図形の各部に**数値をメモした**り，（理科）化学反応式に関係する原子を**モデルで表した**り，**書き出すことで「何が重要か」よく見える。**



4 -(3) 今後に向けて

グローバル人材

アビリティをあらゆる場面で発揮する生徒

グローバル人材育成科や各教科の学習を通して**『スキル』が向上したという自覚**があり，あらゆる場面で課題や活動に応じて**アビリティを発揮**できるようになった

4 -(3) 今後に向けて

実社会では，アビリティを発揮し
自ら課題や価値を見いだしていく

『スキル』を視点とした
アビリティのみとりを，
学びに向かう力を高めるための
評価につなげることを目指す

ご清聴ありがとうございました